



【ホスピス緩和ケア病棟  
ヴァイオリン・コンサート】

音楽療法士 今田 晶子

秋も深まる昨年11月、ホスピス緩和ケア病棟にて「ヴァイオリン・コンサート」を開催しました。演奏して下さったのは「ニコイチヴァイオリン」として音の宅配を行っている、齋藤真知亜さん・律子さんご夫妻です。

お二人の心のこもった音に、すばりと優しく包まれて、温かなひと時を過ごす患者さんとスタッフでした。



【ハロウィンパーティー】

なのはな2F課長 浅利 亜由美

昨年10月にハロウィンパーティーを開催しました。病棟をハロウィン風に飾り付け、利用者様もスタッフも仮装をするイベントです。

お菓子を食べたり、出し物をしたり病棟中が賑やかになりました。最初は恥ずかしい様子の利用者様も、途中からは笑顔でカメラにピースサインを向けてくれ、色々とポーズをとってくれる方もいらっしゃいました。

【今月号のさざなみ通信】

診療部(医師) 小黒 武雄

私が赴任して9カ月が経過しようとしています。この度、「さざなみ通信」に関わる機会を頂きました。「さざなみ通信」は、当院の広報誌の名称で、様々な情報を発信しています。

しかし、入職前、私は当院を知ることにとっても苦労しました。入職してみると、当院には尊敬できる、共に働きたいと思える医療者が多くおられました。当院は自己アピールが控えめな病院と感じました。そして4か月前に、私は広報図書委員会の門を叩きました。

「病院を知るきっかけになる広報誌、職員から愛される広報誌」を作りたいと思ったからです。その後、広報図書委員会で思案を重ね、「さざなみ通信」は装いを新たにしました。皆さま、「さざなみ通信」を手にとられ、どのようにお感じになりましたか？

今後、当院を知って頂き、さらには当院をご活用していただけたら、とても嬉しく思います。今後も皆様の日々の傍らにあるような広報誌を目指していきたくて思っております。最後に、広報図書委員会のメンバー、そして関わって下さった皆様に深く御礼申し上げます。

【洞爺温泉病院 理念】

- 個性性を尊重した医療の提供
- 信頼されるチーム医療の実践

【介護医療院なのはな 理念】

- 利用者の個性性を尊重した、快適な生活施設
- 信頼されるチーム医療・介護の実践
- 尊厳ある看取りが行われる

<編集後記>

明けましておめでとうございます。平成15年6月に第1号を発行したこの「さざなみ通信」も今年で20年目を迎えることとなりました。当初から編集に携わった一人として感慨無量ですが、人間でいえばやと成人式、これからが本番と思い、なお一層当法人の活動をご理解いただけるように内容・構成を工夫し発信していく所存ですので、よろしくお願いたします。(H.N)

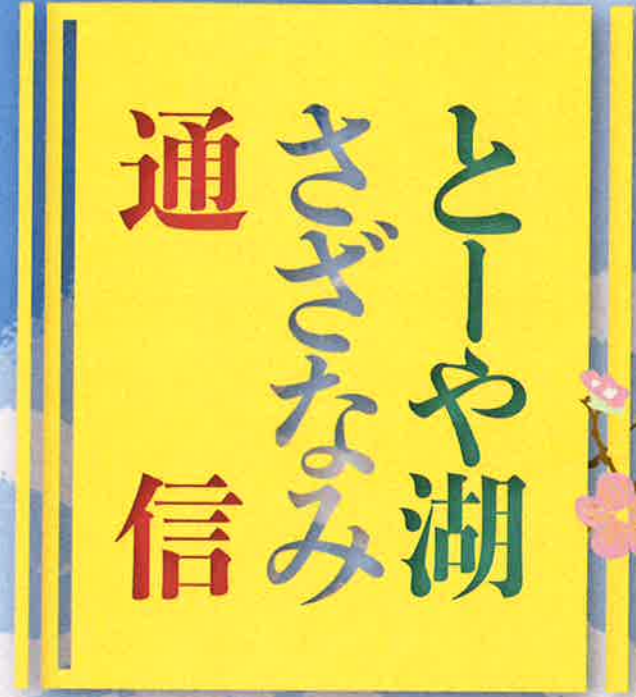
[企画・編集] 医療法人社団 洞仁会洞爺温泉病院 広報図書委員会  
〒049-5892 虻田郡洞爺湖町洞爺町54-41 TEL 0142-87-2311/FAX 0142-87-2260  
ホームページ <http://www.toya-onsen-hospital.or.jp>



医療法人社団 洞仁会  
洞爺温泉病院・介護医療院なのはな

第79号  
広報誌

令和5年  
1月19日  
発行



P.5	P.4	P.3	P.2	P.1
ホスピス緩和ケア病棟 ヴァイオリン・コンサート ハロウィンパーティー 今月号のさざなみ通信	「北の随草録」 技能実習交流会 薬剤課(薬剤師) なのはな3F課長 診療部(医師)	薬剤課(薬剤師) なのはな3F課長 高橋 祐子 安藤 祐子 錠由美	新年のご挨拶 看護部長 薬剤課長 リハビリテーション課長 臨床検査課長 放射線課主任 栄養課主任	橋本 憲之 水谷 一寿 浅利 亜由美 橋本 美紀 高橋 宗正 塚原 夏輝
音楽療法士 今田 晶子	なのはな2F課長 浅利 亜由美	診療部(医師) 小黒 武雄		理事長・院長 中谷 玲二 介護医療院「なのはな」施設長 岸 明彦

## 理事長・院長 中谷 玲二

令和5年1月1日

新年あけましておめでとうございます。

昨年7月に当院は開設35周年を迎えることができました。このような長きにわたり病院を存続できたのは、患者様・ご家族様はもちろん、地域の住民の皆さま、多くの医療機関にも支えていただいた賜物と感謝申し上げます。

昨今、人口の減少と高齢化が取り上げられております。急性疾患の発症後の回復期や徐々に衰弱が進行した高齢者の方々への対応として、充実したリハビリテーション提供による在宅復帰、個々の尊厳を尊重した長期療養や看取りの場として、介護医療院の増床が必要と考えました。当法人では、昨年3月に介護医療院を100床に増床しておりますが、増床後もほぼ満床の状態が続いており、やはり地域には必要な施設であったと考えております。

一方、病院では人材の確保が長年の課題としてあります。特に介護職の不足は全国的な問題となっておりますが、その解決策の一つとして、当院では技能実習生や特定技能人材を積極的に採用しています。昨年は、ミャンマーとインドネシアから4名が入職しました。彼女らは日本語の上達も早く、現場にもすぐに溶け込んでいます。入所されている方々からはお孫さんのようにかわいがっていただき、明るく暖かい風が舞い込んだように感じられます。

地域社会は今後も変貌を続け、求められる医療・介護のニーズも変遷していきます。当法人はこれからも地域のご期待に応えられるように職員とともに頑張っ参ります。

今後とも、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 介護医療院“なのはな”施設長 岸 明彦

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は西棟2,3階の改修が終了し、予定通り100床の介護医療院として再出発できました。おかげさまで、“なのはな”の名称とともに近隣の住民の方々・病院・老人施設にも存在を認知されてきたと感じております。

病院・施設を取り巻く環境としては、昨年も新型コロナに振り回され今年も楽観視はできません。西胆振地域はこのところ新規感染者が多く、当院職員も少なからず家庭内感染から発症しています。陽性が判明した時点で直ちに休業を指示しており、幸い入所者様に感染させることなく過ごせています。当院では一度クラスター発生を経験しており、職員一同院内感染には気を配っております。入所者の御家族の協力でワクチン接種を積極的に進めていただいたこと、また面会制限を受け入れて頂いていることも感染防御に寄与しているものと考えています。面会制限の緩和には踏み切れない状況が続いていますが、IT機器も活用し面会機会を増やせるよう努力してまいります。

最後に、昨年から技能実習生・特定技能人材としてミャンマー・インドネシアから4名の女性を介護補助者として受け入れています。彼女たちは入所者様のため真面目に働いてくれております。街中でも見かけることがあると思いますが、どうか温かく見守ってください。



## 看護部長 橋本 憲之

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみると、チームの力を実感することが多くありました。コロナ禍において、どんなに厳しい状況でもお互いに協力し合うことで、問題を乗り切ってきたと感じています。今後も様々な障害があると思いますが、今回同様、スタッフ一丸となり乗り切っていけると信じています。

また、昨年よかった事としては、患者さん・スタッフにコロナの感染が広がらなかったことです。このことは、患者さん・ご家族・職員など多くの方の協力の賜物と感じています。本当にありがとうございました。

新年は、少しでも皆さまが安心して過ごせるように、また、看護部全体の組織力を向上させる事を目標に努力してまいります。

## 薬剤課課長 水谷 一寿

あけましておめでとうございます。2023年は、「十干(じっかん)」では癸(きみずのと)とされ、「十二支」では卯(うさぎ)とされます。

十二支や十干は数や方角だけでなく、それぞれ独自の意味を持っています。「癸」は、物事の終わり始まりを意味する他、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われています。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされています。この2つの組み合わせである癸卯には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているといえそうです。

薬剤師一人一人の自己研鑽が花開き、その知識が患者様の薬物療法に良い成果として実る一年としたいと思います。

## リハビリテーション課課長 浅利 弘樹

新年あけましておめでとうございます。昨年もコロナ禍がおさまらず、不安が多い一年であったと思います。その中において、病院では感染の拡がりもなく、一年を通じてリハビリ業務を実施できたことは本当にうれしく感じます。

昨年は、理学療法士、言語聴覚士、リハビリ助手が1名ずつ増え、リハビリテーション課は21名で新しい年を迎えました。今年も笑顔を忘れず、そして相手を思いやり助け合いながら患者さんに向き合っていきたいと、リハビリスタッフ全員が同じ思いを共有しております。

本年も患者さんや地域の皆さんの健康と日常生活の維持に貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

## 臨床検査課課長 橋本 美紀

あけましておめでとうございます。

昨年はコロナ禍が続く中、検査を通じて感染者数の増減を肌で感じる一年でした。その中でも院内クラスターの発生がなく過ごすことができたのは、みなさまの日頃の感染対策のおかげと感謝しております。一日も早くこの波が収束することを願うばかりです。

当課は昨年10月に臨床検査技師1名を迎え、3名体制となりました。経験ある技師が増えたことにより、これまで以上に感染症分野を充実させていきたいと考えております。院内ですぐに検査を行えることは、適切な診療につながると考えております。技師一同、迅速かつ丁寧な検査を心がけ、早く正確なデータを提供し、みなさまの治療・健康維持に役立てるよう努めて参ります。本年もどうぞよろしくお願いたします。

## 放射線課主任 高橋 宗正

あけましておめでとうございます。

さて、放射線課の主な業務内容は一般撮影(レントゲン)、X線CT検査、X線TV装置を用いた各種検査(嚥下造影等)、ポータブル撮影(病室でのレントゲン撮影)です。

また今年から新たに遠隔画像診断システムを導入する予定です。これは、撮影したレントゲンやCT画像を遠隔画像診断専門の業者に送信し、業者に所属する放射線診断専門医に診断を依頼するサービスのことです。早ければ画像送信後1時間以内にレポート(読影結果)の受け取りが可能です。質の担保がある速やかな診断は、患者様の安心・安全にも繋がると考えております。

当院は2名の診療放射線技師で業務を担っております。今後ともよろしくお願致します。

## 栄養課主任 塚原 夏輝

SDGsという言葉を目にしたことはありますか？国連サミットが提唱した17個の持続可能な開発目標で、防災や食品安全も盛り込まれています。食品ロス問題では、日本国民1人が毎日おにぎり1個を捨てているのと同じ量の食品ロスが発生しています。①買いすぎを控える②皮・茎を除去し過ぎない③期限内に食べきる など私達にも出来そうことがありますね。水気を切ってから捨てる運搬燃焼コスト低減やCO2削減に繋がります。「地球環境のために」と考えると随分遠い物事に感じますが、身近なことから地球環境を変える意識で一年を過ごしていきたいですね。

おうちの防災グッズの準備はお済みでしょうか？当院は有珠山噴火などの災害時の食事提供体制をより強固にすることができました。備えあれば患いなし！災害が起きて大丈夫、というこころの余裕をもって2023年を進んでいきたいですね。今年もどうぞ宜しくお願い致します。



## 「北の随草録」

薬剤課(薬剤師) 安藤 祐子

木々が葉を落とし、真っ白な雪と澄み切った空気に包まれる冬。視線を上げると、樹冠にヤドリギが鳥の巣のような佇(たず)まいで抱かれています。

ヤドリギは半寄生植物であり、大地に根を張ることができません。水分や養分を宿主である樹に依存していますが、自ら葉緑素を持ち、光合成で栄養の一部をまかさないです。その実は粘着性があり、食べた鳥に運ばれ排泄された種がその粘着力によって樹にくっつき、そこに芽を出し、根を下ろします。そして、餌の乏しい冬には、鳥たちが集まる豊かな環境ともなるのです。

ヤドリギは、多くの生命たちがエネルギーを地中に潜めるこの季節に、瑞々しい生命の色を宙に浮かべ、寶石のような実をつけるその姿から、豊かさをもたらす神聖なものとして、様々な神話や文化の中に息づき、薬用としても深い歴史があり、今に続いています。

私たち人間も、大地に根を下ろすことができませんが、生態系と繋がることで生命を維持し、人の間に根差すことで強くなります。人とヤドリギとの関わりは、それを心に招き入れることで世界から愛を受け取る、祈りとしての歴史でもあったのかもしれない。



赤実寄生木 あかみやどりぎ  
ビャクダン科半寄生小樹木

## 「技能実習交流会」

なのはな3F課長 錠 由美

昨年10月に、社会医療法人博愛会(開西病院及び関連施設・帯広市)と当院の介護技能実習生・特定技能人材、合わせて17名が参加した交流会が行われました。まず、グループに分かれて院内を案内。私たちには日常の「病室からの景観の良さ」、「緩和ケア病棟の落ち着いた雰囲気」、「介護医療院の季節感のある装飾」に皆さん感動されて、逆に私たちにとっても新たな気づきとなりました。

その後の食事会では、実習生達の情報交換があり、新たな仲間との繋がりも生まれて、賑やかな交流会となりました。同じ志を持つ者との交流はモチベーション向上に繋がり、良い気分転換の場となったようです。

私たちにとっても、当院より先に技能実習生を受け入れている社会医療法人博愛会との交流は貴重な経験となりました。本年には、帯広での開催を予定しています。